



公益財団法人SAJ

SAJ Farm 通信

vol.35
2013年 6月号

公益財団法人
School Aid Japan

〒144-0043

東京都大田区羽田 1-1-3

TEL: 03-5737-2773

FAX: 03-5737-2793

<http://www.schoolaidjapan.or.jp>

sajinfo@schoolaidjapan.or.jp

今年も田植えが始まりました！！

皆様、日本では梅雨の時期で雨が多いかと思いますが、いかがでしょうか。カンボジアでも 6 月は雨が多いシーズンなのですが、今年は例年より少ないようです。

カンボジアでは毎年この時期から田植えが本格的に始まります。カンボジアでは田植え機を持っている農家さんはほとんどおらず、基本的には近くの農家さん同士が集まって皆で一緒に田植えを行ったり、田植えの時期に日雇いで人をお願いして田植えをしています。カンボジアの農村に暮らす人々にとって田植えは重要な収入源のひとつであります。

SAJ Farm でも田植えを行いました。田植えの準備の為に 5 月から種を播き、苗を用意しました。日本ではプラスチックのトレイに土と種を入れハウスの中で育てるのが一般的ですが、カンボジアでは苗を育てる水田を用意し、そこに直接種を播きます。種を播いた後、その水田に水が多くなりすぎると発芽や苗の成長が不良になってしまい、水が少なすぎると雑草が生え、土が硬くなり苗を引き抜くのが大変になってしまうため、水の管理が大事です。SAJ Farm では雨の少ない時はポンプを用い、灌水することでなるべく苗が育ちやすい環境をつくっています。苗を引き抜く作業はイネ科の雑草が混じらないように気をつけながら行います。現地スタッフは手慣れており非常に早いペースで苗の束を作ります。苗の束を縛るひもは農場にあるやしの葉から農場スタッフのコンテニアが作ったものを使用しました。

今年はヒモを使い、日本と同じ間隔 (30cm×30cm) になるように田植えを行いました。カンボジアでは 15cm 間隔位で人の感覚によって植えています。ヒモを使い、植える間隔を広げるメリットは

1. 稲の葉が日光を浴びやすく、根は土の栄養を得やすいため、1 株 1 株が大きくなり、丈夫な稲になる。
 2. ヒモを使うと直線に植えることが出来、その後の除草や稲刈りの作業がやりやすい。
 3. ヒモに目印があるため植える時にどこに植えるか迷わずにすむ為、結果として作業が速くなる。
- の 3 点が挙げられます。

実際に田植えを行うと現地スタッフの田植えの速さに驚きます。子どもころから家の田植えを手伝っているため、かなり速いです。6 月は 1.2ha の田植えを行うことができました。7 月にも 0.5ha の田植えを行う予定です。

6 月に植えられた水稻は 9 月頃から稲刈りを行います。そして、今回植えた田んぼの内、0.4ha の田んぼでは 10 月より、もう一度田植えを行い、1 月にもう一度稲刈りを行う予定です。1 年にお米を 2 回作ることを 2 期作と言い、2 期作を行うことでより多くのお米が収穫できるようにしていきます。出来たお米は孤児院の子どもたちに食べてもらいます。昨年度が 1 回目の作付けで 1ha 当



ヒモを使って田植え。ヒモのお陰で速くきれいに植えることが出来ました。写真手前の現地スタッフは本当に田植えが早いです。

たり 2t。2 回目で 1ha 当たり 1t の収量だったので、今年はそれ以上収穫できるようにしていきたいと思います。

今月は田植えと同時並行でレモングラスの定植も行いました。今年度はレモングラスを 5.8ha 作付けする予定で、今月で 5.1ha の作付けが完了しました。来月には田植えもレモングラスの定植も終わり、農場の全ての田畑に作物がある状態になります。レモングラスを 5.8ha という広大な面積に作付けする理由として、

1. レモングラスの出荷量を増やすため。
 2. レモングラスの残渣を有機物として田畑に投与し、土の状態を良くするため。
 3. レモングラスが根を張ることで土を柔らかくし、他の作物も栽培出来る状態にするため。
- 以上 3 点が挙げられます。

今まで作物を育てていなかった畑は土の状態がまだ良くないため、土の状態が悪くても育つことのできるレモングラスを始めに育てることで土を良くしていこうというのが大きな狙いです。ただ、レモングラスにも弱点があります。レモングラスは乾燥には比較的強いのですが水浸しの状況が続くと根が腐ってしまい、枯れてしまいます。そのため、そういった水の溜まりやすい田畑では水稻を作付けすることで土を良くしていければと考えています。

土を良くするために必要なのが有機物です。有機物とは動物の糞や落ち葉、食品残渣などで有機物を土中の微生物が分解することで土の状態を良くしたり、作物への養分となります。SAJ Farm では現在、プノンペンのウエダコーヒー様からコーヒーの粕を月に 1.5t ほど頂いています。しかしながら、これだけではまだまだ足りず、もっと増やしていく必要があります。皆様の中で何かいい情報ありましたら、是非とも教えてください。カンボジアの農家さんも有機物を欲しがっています。最終的には我々 SAJ Farm だけでなく、地元の農家さんにも有機物が供給できればと考えています。

それから、水稻・レモングラス以外にもできるものを作っていきます。今年度はマメ科の作物に力を入れていく予定です。具体的には 6 月 29 日に落花生・大豆の作付けを行いました。マメ科の作物は、作物が育つ上で非常に重要な養分である窒素を根に溜める能力があります。日本でも田んぼで稲を収穫した後にレンゲなどマメ科の作物を播くことで土の状態を良くしている農家さんもいます。カンボジアでも地域によっては落花生を作るところがあるそうです。落花生・大豆が出来れば SAJ Farm の土がより良くなり、他の作物も作りやすくなります。時間がかかりますが農業において土づくりは何よりも重要です。そのため、マメ科の作物作りは根気強くやっていきたいと思っています。

例年より多くの作付けを行いました。勝負はこれからです。例年より多くの作付けをしたということは例年より頑張っ管理せねばなりません。また、9 月からはレモングラスの収穫、稲刈りが始まります。当然、例年より多くの量を収穫いたします。暑い環境の中、負けてしまわないためにも作業の計画をしっかりと作り、それを守っていくことに力を入れてまいります。また、作業が増えた分現地の人を雇用し、就労支援という目的に沿った活動もしていきたいと思っています。現地スタッフの方が働きやすい環境を作り、我々日本人スタッフも現地スタッフと共に日々汗をかいて業務に励んでまいります。

編集後記

今月より農場勤務を開始した早藤（はやふじ）です。今後ともよろしくお願ひ致します。

私も田植えを行いました。手で田植えを本格的にしたのは初めてで、初めの 1 週間は足腰が筋肉痛で苦勞しましたが、最近では体も慣れてきました。

しかしながら、現地スタッフのスピードにはなかなか追いつけず、作業において足を引っ張っていると感じます。これからの勤務では現地スタッフと共に農場を少しでも良い状態にしていけるように励んでまいりたいと思います。

早藤